



日本の緑化事情 / 植物の品種選択のポイント

緑化が義務づけられたり、緑化のメリッとする中、新築案件では様々な箇所に緑化が施されるようになってきています。しかし、緑化が決まるとおくと、ポントはありませぬ。植物ですと、色々な意味で「その地に合わないもの」で施工してしまうと、枯れてしまったりして折角の施工が無駄になってしまいます。植物選択にも費用面だけでなく、様々な検討が必要ですね。

◆環境に適する植物
緑化というものは植物です。つまり生き物です。環境に合った品種を選定する必要があります。耐寒・耐暑・耐乾性・耐風性・耐潮性などを考慮する必要があります。

◆メンテナンス性
当然ながら置いて終わりにしてはなりません。環境に適する事と似た部分があります。灌水の頻度や除草なども考慮しなければなりません。

苗を直に植えるには種を自ら育てる必要が必ずあります。基本的にシステム緑化というものは、土壌改良剤や肥料など、種まきや播種などの作業はすべて業者が担当します。また、定期的なメンテナンスも必要です。価格を優先させると、劣った材料や施工方法が使われ、結果的にコストがかかってしまいます。

◆環境に適する植物
緑化というものは植物です。つまり生き物です。環境に合った品種を選定する必要があります。耐寒・耐暑・耐乾性・耐風性・耐潮性などを考慮する必要があります。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

大日化成に入社して驚いたことは、製品の充填作業です。製品の充填をするにも体力が要り、ばててしまったり、たくさん失敗して先輩方に迷惑ばかりかけておりました。最近では硬化剤製造の担当を任せられたり、原料や資材の発注したり、梱包しをしたりと少しは役に立っているかと思えます。

まだまだ作業が遅かったり、発注を忘れそうになったり、原料や資材の名前がわからなかったり、まだまだ半人前ですが、いずれはすべての製品の製造が出来るように頑張っていきたいと思います。



岡山工場 製造部 井上

夫婦2人とも映画が好きなのですが、最近では新型コロナウイルスの影響で、外出自粛の要請や、映画館も休業要請で、映画館で観ることが出来なくなりました。DVDを借りて観ています。

最後に入社して何月か経たない私に声をかけてくれたり、丁寧に仕事を教えてくれたり、面白おかしく話しかけていただけたり、みんな仲のいい職場は初めてだったの少し驚きました。が、とてもいい上司とい先輩の方の下で働けて大変うれし限りです。



●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

映画で学ぶ 環境問題



ロボコップ (2014 版)
原 題 : RoboCop

監督 : ジョゼ・パジーリャ
脚 本 : ジョシュア・ゼトゥマー
出演者 : ジョエル・キナマン
ゲイリー・オールドマン
マイケル・キートン
サミュエル・L・ジャクソン
上 映 : 117分
制 作 : ストライク・エンターテインメント
公 開 : 2014年

都市伝説のような話こそ日本政府が現実に進めている「ムーンショット計画」です。これは「人類のロボット化計画」であり、国民にAIやチップを埋め込むプロジェクト。2030年を起点に50年間は「ゆりかごから墓場まで」人類がパートナーAIやロボットと共存するのが目標で、これこそ、政府が「新しい生活様式」をさかんに言う理由でもあります。

苗を直に植えるには種を自ら育てる必要が必ずあります。基本的にシステム緑化というものは、土壌改良剤や肥料など、種まきや播種などの作業はすべて業者が担当します。また、定期的なメンテナンスも必要です。価格を優先させると、劣った材料や施工方法が使われ、結果的にコストがかかってしまいます。

「いづれ人類は、AIやロボットになつたか、サイボーグになるのか。政府の手によつて。」

「心理的抵抗が少なく、身体着タイドからAIやロボットが組み込まれ、AIによる「不可能」がなくなり、不老不死に近づくこと。内閣府による「誰も夢を追えない社会の実現」というスゴイ技術で

「夢の技術」といった文言を、どこかで見たことがありました。

「これは、これほど素晴らしい話にも関わらず、私たちの案だ！」と表明する政治家が見当たりませぬ。また不思議なことに、マスコミもほとんど報じません。国民にとってメリットが大きい話なら、なぜ大きく取り上げないのでしょうか。

「夢の技術」といった文言を、どこかで見たことがありました。

「夢の技術」といった文言を、どこかで見たことがありました。

1987年版の方が映画として優れていますが、オープンニングの警告ロボットの、今ある現実そのものでした。今、今回は2014年版を取り上げました。「莫大な利権で市民を見殺しにする政府」が、映画の世界だけではない。今、そして5年後、10年後にも観て頂きたい作品です。

政府は国民にしっかりと伝えるべきでしょう。

「お楽しみ」